

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.42 (秋号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成 22年 10月 15日発行

植樹・自然観察会案内

ドングリから育てた苗木を植えよう!

3年前の「秋の御嶽山麓自然観察会」で拾ってきたドングリを持って帰り、植木鉢に植えたところ、大きく育ちました。一方、2年前、飛騨森林管理署と共に「ドングリころころ大作戦」と銘打ってドングリを埋めましたがほとんど芽を出していません。そこで今回は大きくなった苗木を植えてみます。

植樹後は紅葉も終り冬を迎える準備を始めた周辺の森林内を散策します。

期 日 平成 22 年 10 月 24 日 (日) 少雨決行

集合場所 午前 9 : 0 0 「道の駅・朝日村」(朝日町)

乗り合わせて移動。朝日町秋神地区植樹地へ移動。

植樹地周辺地域の自然観察。15:30 頃「道の駅」にて解散予定

持 ち 物 スコップなどの苗木を植えるための道具、手袋、弁当、
飲み物、雨具、防寒具、植樹が出来る服装

公開講座 自然談話室の案内

文化会館にて

Pm 7 : 00 より

10月19日(火) 「ハエとマスのいた宮川」 田之本 克己 (運営委員)

11月 9日(火) 「飛騨のチョウと最近の問題点」 鈴木 俊文 (岐阜県昆虫分布研究会)

環境講演会

『漁協によるこれからの増殖事業』

—生物多様性に配慮するには—

講 師 : 徳田 幸憲 氏 (高原川漁業協同組合 参事)

日 時 : 11月19日(金) 午後7時より 場 所 : 高山市民文化会館

アサギマダラ マーキング会

8月29日(日) 高山市高根町日和田 御嶽山麓

参加者：鈴木 俊文、村岡 高志・恵子、長屋 強、相地 匠、小野木 三郎、尾崎 裕子・さくら、
齊藤 義幸、清水 幸平、佐藤 八重子、住 寿美子、門前 恵美子、住 之義・文乃、
直井 清正・陽子・一希、小原 靖子・龍神・虎仁郎、関谷 治久、宝田 延彦・由美子

『アサギマダラ マーキング会』

小原 靖子

8月も最後の目曜日、今年も孫2人連れて参加。昨年まで一緒に行っていた孫娘は中学生になり 部活動が忙しく不参加。で、今年は毎度おなじみの龍神と弟・こじろう5歳、保育園児がデビューです。お兄ちゃんとけんかしない、泣かない、疲れたと言わないの約束が守れるなら連れて行くと。「ちゃんとあばの言うこときくから」と、山行き初デビューでした。



我が家の孫がマーキングしたアサギマダラが2年続けて再捕獲されて、4年生になった龍神はこの会だけは何か何でも参加すると……ひと月以上も前からハッスル。

この日、市内は34℃の猛暑日の予報。日和田 千間樽は20℃くらいでしょうか。快適な気温でした。でも昨年沢山飛び交っていたアサギマダラには、なかなかお目にかかれません。1週間前にもこのスキー場から継子岳へ来たときにはグレンデで、林道に、結構姿を見せていたのに。2日前には指導の鈴木先生が下見に来たときにも、飛んでいたそうですが。自然相手は予測つきませんね～。



同乗させていただいた車は、緑の先生こと小野木先生。龍神にはなじみの先生で、大好きな先生です。蝶を求めての移動時は、披が窓外をしっかりと見ながら蝶がいた！と叫ぶと先生はすぐ車を止め、龍神ともども網を持って走り出す。お互いに捕獲数を競っていました。

さて、初デビューのこじろう。お兄ちゃんの捕ったアサギマダラをマーキングして空中に放す役目で十分満足。それでもモンシロチョウ

とモンキチョウをゲット。大喜びで鈴木先生に見せに行っていました。龍神も初参加のときはゼロでしたからね。

終了後、彼は7頭を捕獲。うち2頭が雌。昨年は12頭だったのでちょっと不満顔でしたが、緑の先生より多かったと聞いて満足な一日でした。

アサギマダラさん …沖縄まで飛んでくれますように！！ 途中、再捕獲してくれますように！！ 2度あることは3度ある。を信じる我が孫たちです。

みなさん、いろいろご親切にさせていただいてありがとうございました。

孫のお相手してくれたイケメンのお兄さん、ありがとうございました。

■当日捕獲したのと、指導していただいた鈴木俊文さんが事前に捕獲していたのを合わせて 59 頭にマークをして放しました。この中には 1 頭の再捕獲もありました。

再捕獲されたのは可児市の方が 8 月 17 日に柳蘭峠でマークした個体でした。12 日間全然移動しなかったことになります。渡りにはまだ早かったことも要因となっていると思われます。

当日マークしたうちの 3 個体が二日後の 8 月 31 日濁河スキー場（可児市の方）、1 個体が 9 月 2 日に胡桃島キャンプ場付近（宝田）で再捕獲されました。これもほとんど移動していないことになります。

8 月 22 日にチャオにて「飛騨高山ふるさと歩こう会」の月例会が行なわれ、参加された高嶋恵子さんが再捕獲されました。この個体を調べたら、7 月 26 日に山梨県富士山麓でマークされたものと分かりました。今回はお知らせいただいた記号だけでは分からなかったのですが、高嶋さんが写真を撮っていたので、マークされた方に見ていただき判明したものです。再捕獲の際は可能ならば写真を撮ったほうが良いという例となりました。



乗鞍岳、御嶽のライチョウは大丈夫か

直井 清正

6 月 22 日文化会館での自然談話室での講師は田中正至さんを予定していました。残念ながら異論が出て急遽私が担当する事になりました。田中さんにはご迷惑をおかけしました。私の考えでは「飛騨の大型哺乳類、乗鞍岳の自然保護」という講演を通じ、高山まで分布を広げてきたイノシシ、ニホンジカ、ニホンザルといった哺乳類をハンターである田中さんのお話から問題点を探り、ライチョウや高山植物の保護対策を皆さんと考えたい、そんな気持ちでした。

09 年 11 月 2～3 日、上野動物園と東京大学弥生講堂で第 10 回ライチョウ会議が開催されました。南アルプスではライチョウが絶滅したと思われた程、減少しています。そんな事から上野動物園では 08 年からニホンライチョウと近縁のノルウェーのスバルライチョウの人工飼育に取り組んでいます。飼育状況も見せてもらいましたが乗鞍岳ではまだ黒い夏羽が残るはずのライチョウですが、ここのライチョウはもう真っ白でした。聞くと人工照明で調整しているとのことでした。またニホンライチョウの体重変化は産卵前と秋に少し体重が増えるのに対し、スバルライチョウは秋には 500g から 900g と倍近くに増えるそうです。現地は北極圏で真冬は数ヶ月暗い毎日が続くそうです。そのため採食が難しく秋のうちに脂肪として蓄えているらしい、とのことでした。餌は初めノルウェーから取り寄せていましたが、どこの動物園でも飼育できる体制を目指している関係から国産の飼料を使うよう取り組んでいるとのことでした。面白いと思ったのはウサギの飼料のペレットを半分くらいに壊したものが良い、粉では食い込みが悪いとのことでした。

何故、こんなにしてまで人工飼育にこだわるのか、今から人工飼育に取り組んでも成功するまでに 10 年単位の時間が必要だといえます。今のままでは絶滅は時間の問題と言う危機感があるようです。イノシシ、ニホンジカ、ニホンザルなどの哺乳類が高山帯に進出し高山植物を食い荒らしている南アルプスでライチョウが激減している現状が報告されています。高根町子ノ原高原でも 5 年以上前からイノシシが普通に観察されています。

そんな事から乗鞍岳への進出を心配していました。信州大学の中村先生の乗鞍岳の調査でイノシシが掘り起こしたと思われるお花畑の写真が発表されました。ニホンジカも秋神の岳見峠で 5 年ほど前に観察しています。そんなわけで御嶽も乗鞍岳でもイノシシやニホンジカの進出は時間の問題

です。私は御嶽のカラマツ林を少しでも昔の天然林に戻したいと考え、“乗鞍岳と飛騨の自然を考える会”として「クリやナラ」を植える活動を提案してきました。まだ始めたばかりですが「クマが棲める森作り」はイノシシやニホンジカの棲める森作りでもあります。ライチョウや高山植物の保護とは矛盾します。だからと言って今のカラマツばかりの国有林が良いとは思いません。やはり里山とは違う奥山は自然林に戻してゆくべきだと思います。どうしたらライチョウや高山植物を草食獣から護れるか、私なりに考えました。

昔、成瀬先生や丹羽先生、小野木先生のお手伝いで小坂町へカモシカの電牧柵張りに行きました。自然環境保全連合、略して自保連がニホンカモシカ保護のため全国に募金を呼びかけてやったと記憶しています。そのカモシカは今では城山公園から私の畑にまで入り込んでいます。イノシシも昨年から入ってきました。カモシカの電気柵張りから 35 年、当時は「滅び行く日本の野生」滅び行く云々と言うタイトルの本が多かったと思います。誰が今日の「野獣の王国」を予想できたでしょうか。私の住む地域でも日曜日に少し田畑で作業する人が見られるだけです。あとは里山から人が消え、手入れされない薪炭林は動物たちの絶好の隠れ家となっています。昼間でもカモシカはおろかイノシシさえ目撃されています。人がいないのですから恐れるものもないわけです。カモシカも一時期幻の動物と言われていました。昔は、肉は食用に、毛皮は樺(木こり)の腰皮に使われ、厳寒の槍ヶ岳近くまで猟に入ったと言われていました。乱獲から保護動物となったのですが増えるまでには時間もかかりました。イノシシも明治の初めまでは高山市にも生息していたがどういうわけか明治後期にはいなくなったようです。また、1960 年代頃までは豚コレラなどの病気も流行、積雪も多かったことなどから増えなかったのかもしれませんが。これらの哺乳類の天敵は明治初期まではニホンオオカミでした。また犬の放し飼い、野犬なども人家近くの獣を追い払う効果が在ったと考えます。後は唯一人間、猟師しかいなかったと思います。今、その猟師も高齢化、絶滅危惧種といわれています。私の住む地域の土地改良組合の回覧板を見て驚きました。《ハンター募集、狩猟免許取得後は猟友会に入ってもらふ事になる。》と書かれていました。こんな時代になっていることを認識せざるを得ません。

野生動物の管理などとは人間の思い上がり、傲慢である、と思っていました。でも自然に任せておいて良いとすれば必ず何かが崩壊することが分かってきました。それは残念ながら私たち人類そのものが自然の生態系からはみ出した存在であると言う事なのです。宮城県の金華山ではニホンジカは神の使いとして護られています。その結果、島の植生は荒れ、柵で囲われた所だけが自然のままになっているそうです。しかも食料不足でニホンジカは餓死したり、個体の矮小化も起きているといえます。この小さな島の出来事はそのまま日本列島に住むニホンジカ、イノシシにも当てはまる事ではないでしょうか。

欧米では牧畜、狩猟民族ということで多くの哺乳類を絶滅させてきました。その反省などもあり保護活動も盛んです。一方で王侯貴族の猟場では狩猟獣の管理人を置き、年間の出生数から狩猟できる数を決めているそうです。ですから日本でシカやイノシシが増えて困るというと不思議がるそうです。私自身、狩猟も殺処分も嫌いです。仮に今年五頭のシカを助けたために 5 年後、10 頭のシカを殺処分しなければならなくなったとすればどちらが良いか。そんなことを考えながら皆さんはどのような方法が良いとお考えでしょうか。

私の小さな畑であれば防除柵を作れます。でも広大な乗鞍、御嶽のお花畑に防除柵は不可能です。5 年後、お花畑を掘り返すイノシシ、高山植物を食べ荒らすニホンジカ、ニホンザルなどが出現したとき、私たち“乗鞍岳と飛騨の自然を考える会”はどのような対応をすれば良いのでしょうか。行政に対しこれらの野生動物の殺処分に要請するような事はしたくありません。それを避けるためにも様々な立場の多様な意見を聞きながら解決策を探ってゆきたいと考えています。

自然保護地域(3)飛騨地域

■ 自然環境保全地域

自然環境保全地域	山中山	高山市荘川町	植物の自生地、高層湿原のミズバショウ
	秋神	高山市朝日町	シラカンバの自生地
	萩町	大野郡白川村	ブナ、ミズナラを主体とするすぐれた天然林
	北の俣・水の平	飛騨市神岡町	湿原植物の自生地、ブナ等のすぐれた天然林
	御前岳	飛騨市河合町 高山市清見町	ブナを主体とする落葉広葉樹林と天然ヒノキの針葉樹もみられる温帯極相林
	祖師野	下呂市金山町	高齢樹かつ学術的価値を有するスギ、ヒノキの人工林、野生動物の生息地（ブッポウソウ）
	万波	飛騨市宮川町	日本海型ブナ原生林
緑地環境保全地域	千光寺	高山市丹生川町	スギ、アカマツ、モミ、ケヤキ等の良好な緑地
	荒城神社	高山市国府町	スギを主体とした良好な緑地
	久津八幡宮	下呂市萩原町	スギ、ヒノキ、サワラ、シラカシ等の良好な緑地
	水無神社	高山市宮町	スギ、ヒノキの混交林を主体とした良好な緑地
	日和田・小日和田	高山市高根町	イチイを主体とした良好な緑地
	禅昌寺	下呂市萩原町	スギ、ヒノキの混交林を主体とした良好な緑地
	飯島	大野郡白川村	日本海型のブナの原生林
	西漆山	飛騨市神岡町	ブナ、ミズナラその他温帯広葉樹の良好な緑地
	諏訪神社	下呂市萩原町	スギを主体とした良好な緑地

■ 自然公園

国立	中部山岳 (岐阜・新潟・富山・長野)	高山市・飛騨市	標高 3000m 級の山岳景観美・高山植物の群生
	白山 (岐阜・石川・富山・福井)	高山市・白川村	白山を中心とする山岳景観美
国定	飛騨木曽川	下呂市・その他	飛騨川・木曽川沿いの奇岩・峡谷美
県立	奥飛騨数河川	飛騨市	高層湿原植物群落を中心とした植物景観美
	宇津江四十八滝	高山市	滝を中心とする景観美
	位山舟山	高山市・下呂市	位山・舟山を中心とする良好な自然美
	野麦	高山市	野麦峠を中心とする自然景観美
	せせらぎ溪谷	高山市・下呂市	川上川、馬瀬川流域における溪谷美
	天生	飛騨市・白川村	原生林・溪谷を中心とした山岳景観美
	御嶽山	高山市・下呂市	広大な原生林を持つ山岳景観

■ 保護林 国有林・林野庁内部制度 () 内は森林管理署

森林生態系保護地域 北アルプス金木戸川・高瀬川源流部(飛騨)、白山(飛騨)

材木遺伝資源保存林 7ヶ所(飛騨 6、岐阜 1)

植物群落保護林 万波ブナ林等(飛騨)、天生高層湿原(飛騨)、山中山ミズバショウ(飛騨)
御岳オサバグサ(飛騨)、 胡桃島ハイマツ等(飛騨)、
赤沼田天保ヒノキ(岐阜)、 御岳垂直森林帯(飛騨・岐阜)

特定地理等保護林 乗鞍岳(飛騨)

郷土の森 のりくら(飛騨)、老谷ささやき自然の森(岐阜)

■ 緑の回廊 白山山系(富山県・石川県・福井県・岐阜県)

御嶽展望スポット

その5. 開田高原 地藏峠



高山から国道 361 号を利用して岐阜・長野の県境、長峰峠～久蔵峠(前号掲載)～新地藏トンネルを抜けると木曽福島に出るが、新地藏トンネルが出来た以前は地藏峠が国道になっていた。地藏峠は、古くは「飛騨街道」として重要な交通路で、富山湾で獲れる海産物が高山を経て、木曽に運ばれていた。峠に地藏が建てられているところから、『地藏峠』の名がついた。地藏の側に設置してある、峠の解説文には下記のことが書かれている。

『地藏峠(開田村指定 名勝)ここは標高一、三三二メートル飛騨街道の木曽福島町より開田村への玄関口にあたります。街道開設当時は、木曽福島側から登って、現在の滝上へ出るけわしい道をさけて遠回りをする道筋でしたが、安政六年(一八五九)に大改良工事を行い現在の新道が開発されました。頂上の石地藏は、享保十三年(一七二八)に建てられましたが、盗難にあい昭和四十七年(一九七二)に末川の有志により再建されたものです。 木曽町』
峠から開田側に少し下った場所に展望台がある。

(現在、開田村と木曽福島町は合併して木曽町となった)

くらがね通信 第42号 (秋号) 平成22年 10月 15日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋
TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしております。

■ 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編 集 者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供 : 小池 潜

印刷 : アドプリンター